



新理事長就任あいさつ 平成23年5月28日の理事会にて新たに理事長に就任していただいた荒牧軍治氏に有明海再生への思い等をうかがいました。

さあ、第2ステージへ

有明海再生機構 理事長 荒牧 軍治

「10年で一応区切りをつけよう」との共通認識で有明海再生機構を立ち上げて、6年が経過しました。これまでの活動を振り返り、新たなステップを踏み出すため、昨年度は内部討議を深めるとともに、広く意見を聞くことを目的に5回のシンポジウムと意見交換会を開催しました。テーマは、再生機構の活動を通して我々は有明海の環境をどのように理解したのか、有明海再生に向けてどのような課題が残り、残りの4年間でどのような活動を行うのか、この3点です。

有明海特措法に基づいて環境省が設置した有明海・八代海総合調査評価委員会は、それまでの調査研究成果を分析・評価した成果を平成18年12月に委員会報告書として公表しました。報告書は、それまでの有明海・八代海に関する科学的知見の到達点を示すものとして高い評価を受け、以後の有明海・八代海に関する調査研究のベースとなりました。

再生機構は独自に、分科会、シンポジウム、講座を開催して有明海の現況の理解に努めるとともに、環境省が行った調査研究に関するマスタープランづくりの調査に積極的に参加して、有明海環境に関する科学的知見を幅広く蓄積してきました。環境省の委員会報告の到達点をベースに、これまでの再生機構の活動を通して蓄積した科学的知見を取り纏め、第5回シンポジウムで「有明海調査研究で科学技術はどこまで解明したか」と題して発表したところ、お招きした総合調査評価委員を含む多くの参加者から高い評価を戴き、再生機構におけるこれまでの討議内容と認識は、現時点における科学的知見の到達点であるとの確信を持つことができました。

また、有明海に関する有識者意見交換会では、有明海再生に向けてどのような課題が残っているのか、有明海再生機構はどのように取り組むべきかについて、多くの示唆の富む意見を聞くことができました。

皆様の意見を参考にしつつ内部討議を重ねて、有明海再生機構は2つの活動を軸に行うこととしました。1つは、新たに「開門調査総合検討部会」を設けて、今有明海問題で最も社会の関心が高い「諫早開門調査」に正面から真摯に取り組むことにしました。また、有明海環境の再生に向けた取り組みは当初設定した10年間で目途が立つような簡単な問題ではないことも見えてきました。環境課題の科学的解明だけでなく、有明海沿岸域の社会経済活動、歴史・文化に関する地域知の集積を図るとともに、利害対立から持続可能な有明海環境の確立に向けたシステム合意のために今何をなすべきかを検討すべきであるとの多くの意見をいただきました。このような課題にも「再生道筋検討部会」を設置して正面から取り組むことを決断しました。

有明海再生機構は、第1ステージでは「有明海を理解すること」に力を注いできました。これからの第2ステージでは、社会的な期待に応えてこれまでに蓄積した科学的知見を活用して積極的に提言していくことが求められています。「開門調査を実りのあるものに」「対立の海から穏やかな海へ」「特異な有明海を豊かに持続させるには」考えなければならない課題は数多く残っています。

中間まとめと新たな方向性を検討する過程で、楠田理事長と大和田副理事長から「第2ステージは新たな体制で」と、役職辞任の申し出があり、顧問として今後とも有明海再生機構の活動を指導して戴くことを条件に認めざるを得ませんでした。楠田先生、大和田先生、これまでご指導戴き本当に有り難うございました。心より感謝いたします。また、今後ともよろしくご指導ください。

「さあ、第2ステージへ」初心に戻って、活動を開始しましょう！



中間成果発表会レポート

平成23年5月28日(土)、佐賀大学理工学部6号館で中間成果発表会を開催しました。

当日は、市民や漁業者、研究者、行政関係者など約70名の参加がありました。

今回初の試みとしてポスターセッションを開催しましたが、10名の研究者から発表をいただき、参加者との活発なディスカッションや情報交換が行われました。平成22年度有明海再生に関する研究等助成事業で採択された「カキ礁の復活の干潟道予備調査」のポスターの前では、市民からどの辺りを調査したのか、出来上がるのが楽しみなどの意見がでていました。

その後、中間成果発表会では、平成22年度の事業報告と、総合討論では科学技術の到達点、今後の課題について荒牧理事長より情報提供いただき、今後の展望・取り組みについて短期的には、諫早干拓事業の開門問題に対応する、中長期的には有明海との付き合い方を考え、提言する、と示しました。



ポスターセッションの様子



総合討論座長大串佐賀大学教授

平成23年度理事会・総会報告

5月28日(土)に佐賀大学において、平成23年度理事会及び通常総会を開会しました。

第1号議案平成22年度事業報告及び収支決算の承認に関する件、第2号議案平成23年度事業計画及び収支予算の承認に関する件、第3号議案委員会等組織体制に関する件、第4号議案定款の変更の件についてそれぞれ審議しました。

今回、これまで理事長だった楠田理事と副理事長だった大和田理事から辞任の申し出があり、新理事長、新副理事長が新たに選出されました。

新役員・顧問名簿は下記のとおりです。役員任期は、平成24年6月30日までとなっております。

どうぞよろしくお願いいたします。

役 職	氏 名	所 属
理 事 長(新)	荒牧 軍治	佐賀大学 名誉教授
副理事長	松岡 数充	長崎大学 環東シナ海海洋環境資源研究センター 教授
副理事長(新)	小松 利光	九州大学 大学院工学研究院 教授
副理事長(新)	大串 浩一郎	佐賀大学 大学院工学系研究科 教授
副理事長(新)	堤 裕昭	熊本県立大学 環境共生学部 教授
理 事	中田 英昭	長崎大学 大学院水産・環境科学統合研究科長
理 事	瀬口 昌洋	佐賀大学 副学長
名誉顧問	ウィリアム・コスグローブ	元 世界水会議会長
顧 問	古川 康	佐賀県知事
顧 問	川上 義幸	佐賀大学 監事
顧 問	尾田 榮章	元 建設省 河川局長
顧 問(新)	楠田 哲也	北九州市立大学 国際環境工学部 教授
顧 問(新)	大和田 紘一	東京大学 名誉教授
顧 問(新)	中野 啓	元 有明海再生機構事務局長

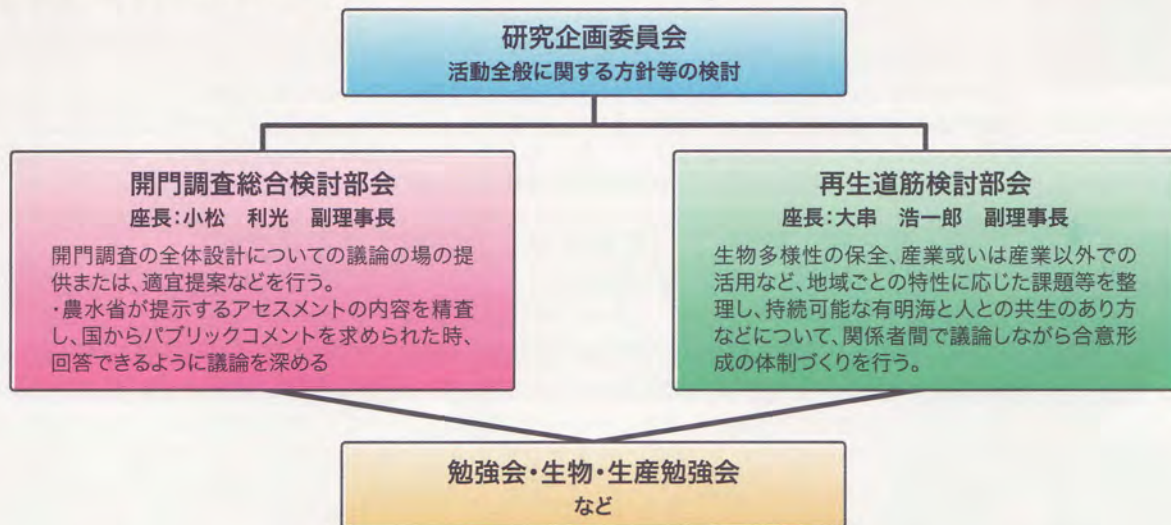
※(新)は新たな役職についていただいた方



理事会・総会の様子

■新研究体制の御紹介

昨年までの6年間で行ってきた干潟分科会、生産分科会、陸域分科会、潮流勉強会の分科会活動における研究成果の収集と分析の成果を取りまとめ中間成果発表会として報告を行いました。後期4年間の活動を活性化させるために、今年度から新たな体制で有明海再生に向けた短期的課題、中長期課題の検討体制を構築することになりました。新研究体制は次のとおりです。



平成23年度有明海再生機構の主な事業計画を紹介します。

平成23年度通常総会で、平成23年度の事業計画を次のとおり実施することとしました。

実施時期(予定)	事業名	内容
5月	理事会・総会	事業計画・予算決算の決議
5月	中間成果発表会	・ポスターセッションの開催 ・これまでの成果報告
6月～	有明海再生に関する研究等助成事業	・研究者や企業が実施する有明海再生に向けた研究費の一部を助成 助成件数:1～2件 募集対象者:45歳未満の正会員及び支援会員(団体)
通年	有明海の再生に向けた課題の検討	・有明海再生に向けた短期的課題、中長期課題の検討 1 研究企画委員会の開催 2 部会の開催 ・開門調査総合検討部会 ・再生道筋検討部会 3 勉強会:随時 ・佐賀大学へ研究委託 開門調査の結果を再生につなげるための検討
	講演会等の開催	・成果発表会 ポスターセッション(研究助成対象者・正会員・支援会員から募集) *若手研究者の発表の場の提供 ・有明海講座:年2～3回 対象:会員・一般住民 定員:50～100人以内の規模で開催
	NPO連携・若手育成プログラムの開催	・有明海周辺NPOとの連携構築に向けた活動 ・若手行政担当者育成プログラムの開催
通年	有明海データベースの充実	・研究成果収集整理、データベースの更新 ・環有明海環境情報データベースへの情報の追加及び整備
通年	広報活動	・ニューズレター、活動年報、講演録、HP等による広報活動



新副理事長のご紹介

平成23年度5月28日の理事会にて新副理事長に就任していただいた先生方を紹介します。



堤 裕昭 教授 (熊本県立大学 環境共生学部 環境資源学科)

この度、NPO法人有明海再生機構の副理事長を拝命いたしました。私は佐賀県の有明海沿岸で生まれ育ち、くしくも海洋生態学を大学で研究する職に奉職し、現在勤務している熊本県立大学で環境共生学部が創設された翌年に有明海で秋季～冬季に赤潮が発生して大規模なノリの色落ちが起きました。また、それ以前より、熊本県の干潟ではアサリの漁獲量が激減し、採貝漁業は壊滅的な打撃を受け、何かしら干潟の生態系に大きな異変が生じていて、その原因を解明する研究を進めていました。有明海とは生まれながらの強い縁を感じ、思い入れも強いものがあります。幼い頃に見て、経験した有明海は豊かな生物の生産に溢れ、活気のある自然がありました。なぜ、このわずかな期間に、このように生態系が衰退してしまったのか？これを戻すことは困難なことなのか？自問する日々が続くとともに、その解決の糸口を見出すべく、研究に当たっています。



大串 浩一郎 教授 (佐賀大学 大学院工学系研究科)

このたび有明海再生機構の副理事長の1人になりました。佐賀県杵島郡白石町出身で専門は水工水理学、リモートセンシングです。地元の佐賀大学に赴任して四半世紀が過ぎました。再生機構発足後すぐに機構の研究企画委員会に所属し、理事長・副理事長・顧問の先生方や佐賀県有明海再生・自然環境課の方々ともお会いする機会がございました。また、3つの分科会と1つの勉強会の委員としてもいろいろ勉強させていただき大変感謝いたしております。現在の研究対象は海よりもむしろ陸の方です。有明海に流入する汚濁負荷の長期変動解析や平野部の流域治水に関する調査を進めております。今後は副理事長の1人として、また、短期的検討と長期的検討の両方を睨みながら有明海の将来を考え、当再生機構の今後の発展に尽くしていく所存ですので、どうぞよろしく願いいたします。

正会員のご紹介

有明海再生に関する研究を学術的に行う大学等の研究者で構成される正会員に新たに入室していただきました。

田井 明 特任助教 (九州大学 大学院工学研究院 環境都市部門)

私は大学の卒業論文から博士論文まで有明海に関する研究を行ってきました。そのなかで猛暑、極寒、豪雨、暴浪時の現地観測、何度実行してもうまくいかない数値解析、著名な先生方に論破された学会発表などで得た経験は私の研究者として基礎を成していると思います。現在は有明海に関しては潮汐や潮流を数値シミュレーションや観測データの解析により研究しています。潮汐や潮流は有明海の水環境を考える際の基本場であること、いまだに解明されていない現象がたくさんあることなど非常に魅力的でやりがいのあるテーマです。これまでも有明海再生機構主催の潮流解析勉強会に参加させていただいており、その場で行われる議論を聞くことは私にとって大変有意義なものになっております。この度、正会員になるにあたり、より有明海再生のために有用な知見を提供できるよう努力していきたいと思っておりますので、叱咤激励のほどよろしく願い申し上げます。



●支援会員募集のご案内 ※詳しくは事務局までお問い合わせください。

有明海再生機構では、当機構の趣旨に御賛同いただき、活動を支援して下さる支援会員(企業・団体・個人)を募集しております。

年会費: **企業・団体… 一口 5万円** **個人… 一口 1万円**

編集後記



潮干狩りで獲れたサルボウ

当機構も今年6月で設立7年目を迎えました。昨年度は全7回に及ぶシンポジウム等の開催、今年5月には中間成果発表会を開催しこれまでの成果を会員や漁業者、流域住民など多くの方々に報告してきました。今年度から理事、研究組織体制も新たに、これからも有明海再生に向けて取り組む所存ですのでどうぞよろしく願いいたします。(く)

発行

NPO法人 有明海再生機構事務局

〒840-0041 佐賀県佐賀市内1-5-14 佐賀県自治会館4階

TEL (FAX兼用) : 0952-26-7050

E-mail : npo-ariake@ceres.ocn.ne.jp

ホームページ : <http://www.npo-ariake.jp/>

※H20.8月、事務所移転で住所が変わりました。電話(FAX)はそのままです。